

富山の豊かな自然が、 創作の源です。

ガラス作家を目指して 千葉から富山に。

ガラス作品と聞くと、吹きガラスで作られた花器やグラスなどを思い浮かべるかもしれません。でも、私の作るオブジェは、建築資材の板ガラスを素材として用いています。それを複数枚貼り合わせ、定規を当てながらミリ単位で少しずつ削っていくことで、自分のイメージを形にしています。

ものづくりに興味があり、大学でガラスを学びましたが、卒業後すぐには進む道を決めきれず、アルバイトをしながら吹きガラス工房の教室に通っていました。その時、工房のオーナーから「ガラスを続けたいのなら、富山でもう一度勉強してきたら」と言われたことが、富山に来たきっかけです。実は、そのオーナーは富山ガラス造形研究所の卒業生だったんですよ。



▲富山ガラス工房で研磨作業を行う様子



小島有香子さん

自然の息吹をかたちに。

2年間だけガラスを学ぶつもりで富山に来ましたが、早17年。子どもの頃は、夏休みに家族で山や高原へ行くのが楽しみでしたが、富山では日常的に自然の中に身を置くことができます。それが心地よくて、気づけばこんなに時間が経っていたのかもしれません。豊かな自然は、私の作品にも大きな影響を与えています。広い空や水平線に沈む夕日、夜空に光る月や星、そして虹など、その美しさに心を奪われてきました。これまでの作品は、そんな富山にいたからこそ生まれたとも言えます。また、山が好きになり、登山という趣味もできました。いろいろな風景を心の中に蓄積していくことが、創作のアイデアにつながっています。

実際の制作では、自宅のアトリエで板ガラスの切断と貼り合わせをして

いますが、削る作業は富山ガラス工房の設備がなければできません。それも富山に残った大きな理由です。ガラス作家が育つ環境が整備されていることがとてもありがたいですね。

人とのつながりも楽しく。

自然が豊かで人混みもなく、食べ物も美味しい。こんな富山の適度な田舎具合が暮らしやすいですね。たまに千葉に帰省して満員電車に乗った時には、「早く富山に帰りたい」と思うほどです(笑)。

最初の頃、富山の人たちは控えめな方が多いという印象でしたが、住むほどに魅力を実感しています。さまざまな業種の方との交流を通して出会った、個性的で面白い人たちとのつながりもでき、富山で毎日を楽しんでいます。

この連載では、富山で活躍するさまざまな方の「アメイジング(驚くほど素敵)」な富山について掲載します。また、WEBサイトでは皆さんのアメイジングなエピソードも募集しています。
▶詳細は、「アメイジング トヤマ」で検索してください。



▲WEBサイト

小島有香子(こじまゆかこ)さん
千葉県柏市出身。2007年には日本伝統工芸展で高松宮記念賞を受賞し、2018年には国際公募展「富山ガラス大賞展」で銀賞を受賞。